

性器クラミジア感染症

STI(Sexually Transmitted Infection)とは、性行為で感染する感染症の総称です。先月特集した HIV/AIDS もその 1 つですが、日本で最も多い STI が性器クラミジア感染症です。推定罹患者は女性で 81 万人強、男性で 14 万人弱の計 95 万人強との報告があります。性行為で感染しますので、性的活動が活発な若年層に多く、近年は女性患者の報告が増加しています。女性患者のピークは 20-24 歳で、15-19 歳がそれに続きます。また正常妊婦の 3 ~5% でクラミジア感染者が見られています。

【病原体】クラミジア・トラコマチスで、以前は眼のトラコーマの原因として有名でした。しかし最近は衛生状態の改善と共に、トラコーマは殆んど見られなくなっています。

【感染経路】成人では性行為により感染します。新生児では母親からの産道感染です。

【症状】無症状の事が多いのが特徴的です。

- 男性：尿道炎が最も多く、排尿痛などがみられます。しかし感染者の 50% は殆んど自覚しない程度の軽い症状に留まります。但し未治療のままですと、パートナーへの感染源となり、前立腺炎などを起こします。
- 女性：男性よりも症状が軽く、感染者の 80% は無症状です。症状としては、子宮頸管炎によるおりものが主なものです。適切な治療が為されなければ、男性感染者と同様にパートナーへの感染源となります。さらに上行性に感染が広がると、卵管炎や骨盤腹膜炎を起こして不妊症の原因となります。感染がさらに腹腔の上部に至り、肝臓周囲に炎症が進んだ Fitz-Hugh-Curtis 症候群を起こすと、右上腹部の痛みを訴える事があります。また妊婦の感染は、新生児に産道感染による新生児肺炎や結膜炎を起こします。
- 口腔性交による咽頭炎も、近年少なからず報告されています。

【治療】テトラサイクリン系・マクロライド系・ニューキノロン系の抗菌薬が用いられます。また STI では、パートナー間でお互いに感染させるピンポン感染が起こります。そのため、感染者とパートナー両者を同時に治療する事が重要です。

予防には、コンドームの使用が有効です。

※ 性器クラミジア感染症自体は致命的な疾病ではないため、軽く見られがちです。しかし上記のような合併症を起こす上に、HIV に数倍感染しやすくなると言われています。無症状で経過する事が多いため、かえって厄介な疾病と言えます。

御意見・御質問などは石巻保健所健康対策班までお願いします。 電話：0225-95-1430 FAX：0225-94-7104

もっと詳しく知りたい場合は、保健環境センターHP(<http://www.pref.miyagi.jp/hokans/>)を参照してください。